

健常者と障がい者のスポーツ・レクリエーション活動連携事業： スポーツ・レクリエーション活動サポート研修会

- 1 日 時 平成27年7月12日（日） 10時～12時
- 2 会 場 県立体育館（浜田市）
- 3 講 師 講義1：板持千紘氏【県障がい福祉課】
講義2：吉岡雅裕氏【（公財）島根県障害者スポーツ協会】
- 4 参加者 23名
- 5 内 容

講義1：「あなたに知ってほしい、障がいのこと」

- 島根県には約50,000人の障害者手帳保持者がいる。（約14人に1人の割合）
- あいサポート運動・・・日常生活の中でちょっとした手助けを実践する「あいサポーター」の活動を通じて、誰もが暮らしやすい地域社会をつくっていく運動
「あいサポーター」は、現在約24,000人
- 高齢者の方への配慮は日常的にできるのに、障がいのある方へのサポートを躊躇するのはなぜ？
- 外見からは障がいがあることに気づいてもらえない人（例：聴覚障がい、内部障がい、知的障がいなど）は、悩み苦しんでいる。
- 障がい特性に応じた配慮の方法がある。
例：知的障がい → Yes、Noのどちらかで答えられる質問にする



講義2：「すこし知って大きな安心！障がい者サポートあれこれ（基本）」

- 現状 特別支援学校を卒業すると運動機会がほとんどない
後天的な障がい者はどこで活動すればいいか情報がない
- 対応 ・受入 → 力を抜いて、ふだんと変わらぬスタンスで
・知る → まず接してみる
一緒になって楽しむ
スポーツをやっている障がい者の方は何の心配もいらない。ふだんと同じ接し方で十分。（構えることはない）
- 障がいのある方は身近にいらっしゃる。いつ、どこで、接することになるか分からない。
- 身体障がいは後天的になることも多く、自分自身がいつ障がい者になるかも分からない。

演習：「障がい者の方の動線を考えた会場配置を考えよう」

○施設説明（県立体育館職員）

施設を回りながら、広さやアプローチ、配慮すべき特徴を確認する。

視点：車いすでの移動が可能か

手すりはあるか

音が反響して聞き取りにくいことはないか

多目的トイレの位置

サポートスタッフの配置と待機場所

○意見交換「レクリエーション・フェスティバルを想定した会場配置を考える」

- ・ゴールボールのデモンストレーションと体験コーナーの場所

視覚障がい（健常者はアイマスク着用）の方の競技と言う特性を考えると周りの音をコントロールする必要がある。

周辺には他の障がい者スポーツを体験する場や活動の紹介コーナーなども設置する。

- ・スラックライン体験コーナー

障がいのある人や小さい子どもでも安全に楽しむことができる場と少しダイナミックな活動ができる場といった複数の場を設定する

- ・授産施設等の販売コーナー

より多くの人に足を運んでもらうことができるよう受付の近くに設置する。

この研修は、昨年度のレクリエーション・フェスティバルの振り返りにおいて、「障がいのある方への接し方や会場配置等が十分でなかったのではないか。」という反省を受けて、今年度のレクリエーション・フェスティバルの会場である県立体育館において実施しました。

参加者は、当日体験コーナーを運営する団体のスタッフをはじめ、行政職員やスポーツ推進委員、体育施設職員など、今後障がいのある方のスポーツ・レクリエーション活動に積極的に関わっていただきたい方が中心でした。

講師の二人は日頃から障がいのある方と接していらっしゃり、何が必要なのか、どうかかわればいいのかなど、障がいのある方の立場から具体的な場面を想定し、わかりやすく説明して下さいました。

障がいのある方だから特別なサポートするのではなく、目の前に困っている方がいた時に、何に対して困っていて、どのようなサポートが必要なのかをきちんと聞いて行動することの大切さを改めて確認しました。



レクリエーション・フェスティバル当日は、本研修に参加した運営スタッフの一部があいサポーターしまねっ子バージョンのポロシャツを着用します。

何か困ったことがあればお気軽にお声掛けをしてください。できるかぎりの対応をします。